

コミュニケーション指導実践シート

対象	小学部5・6年生	教科・領域等	生活単元学習（交流及び共同学習）
場所	体育館	学習形態	集団学習

1 児童の実態

どの児童も体験的な活動への関心が高く、言語による表出は難しいが、活動への意欲を自分なりに表現している。その表現方法としては、発声や表情、口の動きで自分の意思を伝える児童、簡単なサインと発声で表現する児童、自発的に近寄り、手を伸ばすことで表現する児童がいる。

2 児童の目標

- ・友達との関わりを楽しみ、自分からタッチをしたり、気持ちを表現したりすることができる。
- ・友達と協力して、ボールを投球することができる。

3 実践

<指導の手立て>

- ・準備体操や投球時の支援、活動後の握手等、児童どうしが関わるような場面を設定した。さらに、その友達からの働きかけに対して個々の方法で応えるよう促した。

①はじめの言葉

②準備体操

③ルール説明

④投球練習

⑤的当てポッチャゲーム

⑥表彰

⑦写真撮影

⑧感想発表

⑨ありがとう握手

⑩おわりの言葉



⑤的当てポッチャゲーム

※以上の活動内容のうち、⑤と⑨の場面においてコミュニケーションの評価を行った。さらに、活動全体を通して、全員の児童が意欲的に参加できるように、一人一役の活躍場面を作り、会の進行を児童が主体的にできるようにした。



⑨ありがとう握手

4 児童の変容（成果：○、課題：△）

○以前は緊張から体が固まってしまう児童もいたが、友達が差し出した手を握り返したり、笑顔と口の動きで気持ちを伝えたりする様子が見られた。

△継続的に交流学习をすることで、さらなる自己表現力の向上を図りたい。